

# 令和3年度人事院政策評価結果

|   | 政策所管部局  | 公平審査局              |                    |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |
|---|---|--------------------|--------------------|-------|-------|-------|-----------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---|------------------|--------------------|--------------------|--|-------|-------|-------|----------------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| <b>政 策</b>                              | <b>5 公平審査の適正かつ円滑な実施</b>   |                    |                    |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |
| <b>目 標</b>                              | <p><b>(政策目標)</b><br/>各事案について、適正な手続にのっとり、両当事者に十分な主張を尽くさせた上で、速やかに判定又は決定を発出する。</p> <p><b>(具体的取組)</b><br/>公平審査の適切かつ迅速な処理は、職員の利益はもとより、人事行政の適正な運営、ひいては公務の公正かつ能率的な運営の確保のためにも常に求められる。このため、事案の整理、調査範囲の検討等を十分に行った上で、当事者との緊密な連絡・打合せ、当事者による主張・立証のための行為の促進、的確な審理指揮等により迅速かつ計画的な集中審理を行うとともに、請求者の主張が多岐にわたるなど事実認定を慎重に行う必要があるような事案については、両当事者の主張を十分に確認するなど丁寧な審査に努める。</p> <p>令和3年度においては、公平審査を適切かつ迅速に実施し、できるだけ早期に判定を発出するよう努め、受付から1年以内に処理した件数の割合を60%以上（不利益処分審査請求事案については75%以上）にする。また、結審等から4か月以内に判定等を行った件数の割合を70%以上にする。</p>   |                    |                    |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |
| <b>具体的取組結果</b>                          | <p><b>《取組内容1》必要十分な主張・立証活動の円滑な実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審理を円滑に実施する取組として、事案の進行計画を作成し、それに沿ってスケジュールを管理しながら、当事者の主張・立証活動を促し、必要十分な調査を効率的に行うよう努めた。</li> <li>・ なお、一部の事案については、公平審査制度の趣旨に鑑み、請求者・申立人の事情等に配慮して、主張・立証活動等のための期間を十分に設け慎重かつ丁寧な審査に努めた。</li> </ul> <p><b>《取組内容2》事案の計画的な進行管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審理手続の進捗管理等を十分に行い、適切に審理をし、結審等の後、速やかに判定案作成を行った。その結果、令和3年度末における全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合は79.6%（93件中74件）（不利益処分審査請求事案については71.4%（14件中10件））、令和3年度末における全判定件数に占める結審等から4か月以内に判定等を行った件数の割合は91.3%（46件中42件）となった。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 16.6%;">令和元年度</th> <th style="width: 16.6%;">令和2年度</th> <th style="width: 16.6%;">令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合</td> <td style="text-align: center;">48.0%<br/>(25件中12件)</td> <td style="text-align: center;">62.0%<br/>(79件中49件)</td> <td style="text-align: center;">79.6%<br/>(93件中74件)</td> </tr> <tr> <td>不利益処分審査請求事案の全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合</td> <td style="text-align: center;">66.7%<br/>(6件中4件)</td> <td style="text-align: center;">56.5%<br/>(23件中13件)</td> <td style="text-align: center;">71.4%<br/>(14件中10件)</td> </tr> </tbody> </table><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 16.6%;">令和元年度</th> <th style="width: 16.6%;">令和2年度</th> <th style="width: 16.6%;">令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全判定件数に占める結審等から4か月以内に判定等を行った件数の割合</td> <td style="text-align: center;">66.7%<br/>(15件中10件)</td> <td style="text-align: center;">62.5%<br/>(40件中25件)</td> <td style="text-align: center;">91.3%<br/>(46件中42件)</td> </tr> </tbody> </table> |                    |                    | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合 | 48.0%<br>(25件中12件) | 62.0%<br>(79件中49件) | 79.6%<br>(93件中74件) | 不利益処分審査請求事案の全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合 | 66.7%<br>(6件中4件) | 56.5%<br>(23件中13件) | 71.4%<br>(14件中10件) |  | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 全判定件数に占める結審等から4か月以内に判定等を行った件数の割合 | 66.7%<br>(15件中10件) | 62.5%<br>(40件中25件) | 91.3%<br>(46件中42件) |
|   | 令和元年度   | 令和2年度              | 令和3年度              |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |
| 全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合             | 48.0%<br>(25件中12件)  | 62.0%<br>(79件中49件) | 79.6%<br>(93件中74件) |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |
| 不利益処分審査請求事案の全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合 | 66.7%<br>(6件中4件)  | 56.5%<br>(23件中13件) | 71.4%<br>(14件中10件) |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |
|   | 令和元年度   | 令和2年度              | 令和3年度              |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |
| 全判定件数に占める結審等から4か月以内に判定等を行った件数の割合        | 66.7%<br>(15件中10件)  | 62.5%<br>(40件中25件) | 91.3%<br>(46件中42件) |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |
| <b>測 定 指 標</b>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合</li> </ul>   |                    |                    |       |       |       |                             |                    |                    |                    |   |                  |                    |                    |  |       |       |       |                                  |                    |                    |                    |

|                               |  |
|-------------------------------|--|
|                               | <p>(期間の算定に当たっては、審査請求書等の補正に要した期間(補正依頼文書の発出日から補正済の審査請求書等の受付日まで)を除く。)</p> <p>令和3年度末における上記割合は79.6%、不利益処分審査請求事案については71.4%となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>全判定件数に占める結審等から4か月以内に判定等を行った件数の割合</b><br/>令和3年度末における上記割合は91.3%となった。</li> </ul>  |
| <p><b>達成度の評価</b></p>          | <p>《評価》相当程度進展あり</p> <p>《目標達成度の判断理由》</p> <p>全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合及び全判定件数に占める結審等から4か月以内に判定等を行った件数の割合については、上記のとおり目標数値を達成した。なお、それぞれの当該件数は、例年と比較して大幅に増加した令和2年度と同水準であった。</p> <p>他方、不利益処分審査請求事案の全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合については、目標数値を下回ったものの、昨年度及び一昨年度を上回る水準となった。なお、当該割合について、請求者・申立人の事情等に配慮し、より慎重な審査が必要な事案については、可能な限り速やかな処理に努めつつも、主張・立証期間を通常より長く取る等の対応をしたものが3件あり、また、そのうちの2件は、令和元年度に受け付けた事案(令和3年度当初から、目標期限内の処理ができないことが明らかであった事案)であった。</p> <p>以上を踏まえ、令和3年度における政策は、相当程度進展ありと判断した。</p>   |
| <p><b>施策の分析</b></p>           | <p>《取組内容1について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事案の進行計画を作成し、それに沿ったスケジュール管理を徹底しながら、当事者の主張・立証活動を促し、必要十分な調査を効率的に行うよう努めただけでなく、請求者・申立人の事情に配慮し、両当事者の主張を丁寧に確認し、慎重な審査に努めたことにより、事案の適切かつ迅速な処理が図られたことから、目標の達成において有効に寄与したと考えられる。</li> </ul> <p>《取組内容2について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審理手続の進捗管理等を十分に行い、適切・迅速に審理し、結審後、速やかに判定案作成を行ったことにより、事案処理の促進と判定の速やかな発出が図られたことから、目標の達成において有効に寄与したと考えられる。なお、不利益処分審査請求事案の全処理件数に占める受付から1年以内に処理した件数の割合については、目標の達成はできなかったものの、審理手続の進捗管理等を十分に行ったことは、事案処理の促進に有効な取組であったと考えられる。</li> </ul> |
| <p><b>今後の施策に反映させるべき事項</b></p> | <p>引き続き、当事者の主張を踏まえて必要十分な調査を進め、効率的かつ的確な事実認定を行うことなどにより、公平審査の適正かつ円滑な実施を進めることが必要である。令和3年度の結果からも進捗管理の徹底等が迅速な審理手続の実現に有効に寄与したことを踏まえ、引き続き、進捗管理の徹底と速やかな判定案作成に取り組んでいく。</p> <p>《取組内容1》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、事案の進行計画を作成し、それに沿ってスケジュールを管理しながら、当事者の主張・立証活動を促し、必要十分な調査を効</li> </ul>  |

|                      |  |
|----------------------|--|
|                      | <p>率的に行うよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その際、請求者・申立人の事情等に配慮し、より慎重な審理が必要と見込まれる事案については、引き続き、主張・立証活動等のための期間を十分に設け、慎重かつ丁寧な審査を行う必要がある。</li> </ul> <p>《取組内容2》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、争点・論点等の整理や審理手続の進捗管理等を十分に行い、適切・迅速に審理をし、結審後、速やかに判定案作成を行う。</li> </ul> <p>《測定指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数値目標があることにより、計画的かつ迅速な事案の処理につながるものと考えられ、特に、受付から1年以内の処理件数割合に係る測定指標については、令和元年度新設の目標であることから、令和4年度も引き続き測定指標として設定しつつ、請求者・申立人の事情等に配慮し、当事者の主張・立証活動の期間を十分設け、慎重かつ丁寧な審査を行った結果、目標を達成できなかったものについては、その要因を検証する。</li> </ul> |
| <p><b>有識者の意見</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 達成度の評価では、不利益処分審査請求事案については未達成ではあるものの前年よりも伸びている。</li> <li>○ 今回の「全判定件数に占める結審等から4か月以内に判定等を行った件数の割合」は9割以上となっており、既にこれ以上改善するのが難しいレベルとなっている。今後は、このレベルをしっかりと維持していただくことが目標となるのだろう。</li> </ul>   |